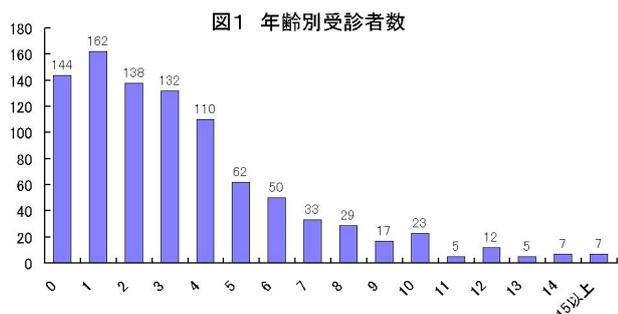


小児科ナイトの11ヶ月

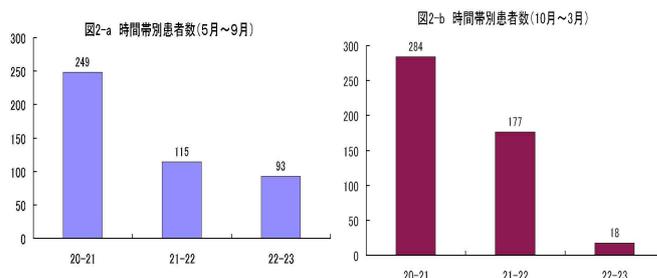
平日夜間の小児救急患者に少しでも対応するため、平成17年5月2日から「小児科ナイト」と称して、小児の時間外診療を行っております。月曜日から金曜日の平日毎日20時～23時の受付で開始し、10月からは受付時間を20時～22時に変更しています。今回は、平成18年3月23日までの診療記録（総診療日数218日、総患者数936名）から、その受診内容を簡単に御報告致します。総患者数936名のうち、入院となった方は28名（3%）、他院からの紹介は12名、他院への逆紹介は26名、救急車にて搬送された方は6名でした。

まず、受診患者の年齢層ですが、図1のように分布しており、特に5歳未満の乳幼児の比率が73.3%と高く、最も多かったのは1歳児の162名（17.3%）でした。5歳未満児は入院数も多く、小児科ナイトからの全入院数28名のうち、22名（78.6%）を占めています。



次に、時間帯別受診者数をみてみましょう（図2-a、b）。9月までは23時、10月からは22時で受付終了となっています。

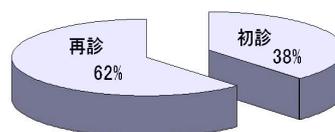
どちらの時期も、20時～21時の受診が多いという結果です。10月以降は20時～21時の数の伸びよりも、21時～22時の伸びの方が大きく、22時以降に分散していた深夜帯の患者さんが、受付時間に間に合うように早めの来院をされているものと思います。



次に、曜日別の受診者数をみてみましょう（図3）。このグラフは、各曜日に受診された患者さんを診療日数で割った値（1日当りの患者数）を示しています。この結果からは、特に曜日による大きな差はないようです。ただ、開業医の先生方が午後お休みの日であることが多い、水曜日と木曜日が若干多めの印象です。



図4 初診・再診の割合



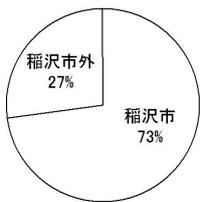
次に、初診・再診の割合をみてみましょう。初診とは、

過去に当院小児科に受診されたことのない初めての患者さんです。初診38%、再診62%という割合となっています。初診の患

者さんが全体の約 4 割を占めており、平日日中に比べるとやはり初診の割合が高くなっている印象です。

次に、受診患者さんに行われた検査・処置等についてみてみましょう。インフルエンザ・A 群溶連菌・ロタウイルス、アデノウイルス等の病原体迅速検査は 111 名 (11.9%) に、レントゲン撮影は 110 名 (11.8%) に、採血検査は 77 名 (8.2%) に、点滴治療は 48 名 (5.1%)、のべ 346 名の患者さんに行われました。

図5 地域別受診者数



最後に、地域別の患者数を見てみましょう (図 5、6)。稲沢市のみでなく、かなり遠方からも受診者がいることがわかります。特に、

隣接する清須市からは 57 名と多数の患者さんが受診しています。稲沢市と稲沢市以外の受診者数の比は、約 681 : 255 で、約 3 割が稲沢市外からの受診でした。

図6 地域別患者数



小児科ナイトが始まってから、もうすぐ 1 年になります。稲沢市を中心とした西尾張地区の子供達の夜間急病に対して、どれだけお役に立っているのかは全くわかりませんが、他の公的病院ではあまり行われていない試みとして、今後も試行錯誤を繰り返しながら、最良の体制を模索していこうと考えています。

(文責 小児科 柳瀬陽一郎)

2 病棟 2 階は

こんなところ・・・

2 病棟 2 階はベッド数 32 床の病棟で、内科(内分泌)・小児内科・眼科の病棟です。スタッフ数が 18 名。院内でも一番小さな看護単位で、アットホームな病棟でみんなが力を合わせ、「笑顔と看護に対する情熱」で患者さんに接し、安心して治療が受けられるように日々努力しています。師長の趣味はケーキ作り、チーズケーキは絶品で「どこのケーキ屋さんにも負けないくらいおいしい」とスタッフからの評価は上々。スタッフの誕生日には焼きたてのチーズケーキが、丸ごと一個届くので、みんな楽しみにしています。

病棟は売店に一番近いところにあります。入院患者さんの多くは糖尿病の方が多く、教育入院や血糖のコントロール目的で入院しておられます。食事療法が治療の中心の患者さんにとって売店がすぐ近くという現実にはちょっとつらいかも？と考えますが、患者さんにとっては「これも一つの治療、どれくらい自制できるかも大切だ！」と言われる方も多くいらっしゃいます。「食べるとすぐ血糖値が上がるからバレバレだもんなあ。」と笑って話をされます。

小児科の入院病棟として 17 年 10 月から 1 年ぶりに患児の受け入れを開始した為か、平成 17 年度の平均入院期間は 17 日と短く患者さんの回転が速いのが特徴です。内科の患者さんでも平均 30 日前後の入院期間で退院されます。短い入院期間の中で、「稲沢市民病院に入院してよかった。」と患者さんに評価していただけるように、看護スタッフ一同、今以上に努力していきたいと思っています。

院長のあいさつ

4月1日から稲沢市民病院へ病院長として赴任してまいりました鳥本雄二と申します。当院には以前13年近く勤務したことがあり、6年ぶりに戻ってまいりましたが、以前在職していた時期と比較しますと、医療制度の変革に伴い、当院の診療体制も大きく変わってきております。

産科の休診、小児科の入院縮小、さらには内科医師の欠員による当直体制の縮小など、地域の皆様に対して非常にご迷惑をお掛けする状態が続いております。大学の独立行政法人化、新研修制度など医師不足の要素が当分続くことが予測され、早急の改善は困難ではありますが、1日も早く問題点の是正をはかり、地域の中核病院として、病院の基本理念である「地域の皆様に親しまれ信頼される病院」を目指してまいりたいと思っております。



また、本年4月から、院内に「病院建設対策室」が設置され、新病院建設事業の推進に向けての第一歩を踏み出しました。医療制度や患者様の動向について調査するなかで、アンケート調査や専門家の方々の意見をお聞きしながら、市民のニーズに応え、なおかつ特色ある病院づくりを目指し努力したいと存じますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(病院長 鳥本 雄二)

稲沢市民病院の基本理念

地域の皆様に親しまれ信頼される病院をめざします。

基本方針

1. 患者さん主体の医療を行います。
2. 地域の基幹病院として、急性期医療の充実に努めます。
3. 地域医療機関と連携し、地域医療の充実に努めます。
4. 安全で質の高い医療を提供します。
5. 職員の教育・研修を行い、医療の質の向上に努めます。

稲沢市民病院ニュース 第15号

発行日 平成18年5月18日発行

発行元 稲沢市民病院

〒492-8510 稲沢市御供所町1-1

※ ご意見をお待ちしています

電話 0587(32)2111

ファックス 0587(32)2151

電子メール hospital@city.inazawa.aichi.jp

(発行部数 1,000部)